

研究の取り組み

雑誌名	研究紀要 / 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校
巻	74
ページ	9-11
発行年	2021-03
URL	http://hdl.handle.net/2297/00062416



2 章

研究の取り組み

2章 研究の取り組み

国立大学附属学校には、「地方教育の牽引」、「教育実習の実施」、「研究開発」といった三つの使命が与えられている。附属学校であるがゆえに、研究開発に取り組むことは当然であるが、今年度、本校ではあらためて附属学校としての役割について見直すこととした。

2-1. 附属学校園に求められていること

文科省(2017)は、『教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて-国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書-』の中で、国立大学附属学校の研究や実践成果に関する課題を以下のように指摘している。

附属学校園の研究・実践成果について、公立学校等において実際に活用された事例を把握しているのは 30 大学 (68.2%) 及び 183 校園 (70.4%) である一方、教育委員会側は 19 教委 (30.2%) しか把握していない。多くの附属学校が研究成果を研究紀要等の形でまとめて教育委員会等に提供しているが、研究テーマ自体が汎用性に欠けるものや、記述が詳細である一方でポイントが端的にわかりやすくなっていないものなど、地域の公立学校にとって活用しにくいものが多い現状がある。結果として、附属学校の教員がかかる膨大な労力と時間の割に、その研究成果が地域や全国で十分に生かされていない。

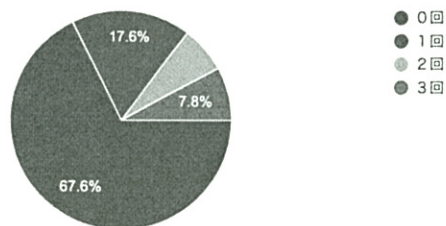
また、同調査の中で各附属学校では、今後『研究開発』、『地方教育の牽引』に重点を置いていくことの必要性が述べられており、公立学校とのパイプを構築することが今後ますます求められることとなる。

2-2. 県内公立学校教員の本校への印象調査

上記、報告書で述べられている状況が本校でもあてはまるかどうかを確認するべく、2019 年 2 月に県内公立教員 102 名を対象にアンケート調査を web 上で行った。研究発表会に参加した回数をたずねたところ、67.6%が参加したことはなく、リピーターはわずか 14.7%であった。

また、同アンケート調査の中で附属小学校の学校研究に関する印象をたずねたところ、45.5%の教員が「どんな取り組みや研究をしているか分からない」と回答していた。これらの調査から本校が取り組んでいる学校研究は、有識者会議で文科省が提唱するように、認知度が低く、公立学校にとって活用しやすいものとなっているとは言い難い。それゆえ、研究の発信方法について見直すこととした。

2017-2019年の附属小学校の研究発表会には何回参加されましたか
102 件の回答



2-3. 情報発信プラットフォーム#WeCREATEの構築

これまで、年1回の研究発表会と研究紀要が本校における研究成果を発信する主な手段であった。だが、アンケート調査からもその発信の仕方について、改善の必要があることが明らかになり、新たな情報発信のあり方について検討を行った。その際に、全国の小学校教員約 500 名を対象に「普段からどのような情報を求めているか」、「どのようなメディアで情報を収集しているか」などといった教員の情報収集に関するアンケート調査を行った。そして、調査結果を踏まえ、本校研究部での話し合いをもとに、新たな研究実践プラットフォーム「#WeCREATE」を構築した。本プラットフォームは、「教育実践に関する定期的な情報発信」、「発信の主体者を本校教員のみに限定しない」、「ニーズのある情報掲載」という三つをコンセプトとしている。

第一に、「教育実践に関する定期的な情報発信」であるが、従来の研究発表会と研究紀要では本校の実践を目

にする教員の数が限定的になってしまった。そこで、本校教員が数事例を時期をずらして、分散的に実践プラットフォームに掲載することにより、新たな情報発信のスタイルの構築を目指した。

第二に、「発信の主体者を本校教員のみ限定しない」ことについてである。本校の授業者をプレーヤーとして捉えると、これまで研究発表会における参観者は、研究協力者を除き、あくまでも授業を参観しに来ているオーディエンスである。ここに変化の余地があると考えた。他校の教員が本校教員と同じ目線に立ち、実践プラットフォームに自身の実践を投稿することができるシステムがあれば、必然的に本校の立ち位置とは変わることとなると考えた。

第三に、「ニーズのある情報掲載」についてである。研究実践プラットフォームを構築したとしても、ニーズがない情報が掲載されているところに人は集まらない。そこで、本校の研究テーマである項目に加え、アンケート調査の結果から全国の教員の関心が高かったカリキュラム・マネジメント、GIGA スクール構想に関連したコンテンツも掲載することとした。